

	音楽研究会 部会記録				
日時	令和4年3月9日(水) 15:30～16:45				
部会名	音楽づくり			主任	彌榮 佳子
参加数	6人	司会	武田 聖子	記録	小椋 美空
研究部テーマ：音楽的な見方・考え方を働かせて、思いや意図をもって、協働的に学ぶ子どもの姿を目指して 部会テーマ：発想を得たり、思いや意図をもったりしながら、共に考え、つくった音楽のよさを感じることがで きる活動					
研 究 内 容	研究のまとめ・成果 ・ほとんどの研究会がオンライン開催ではあったが、具体的な子どもの姿から研究テーマに沿って考えることができた。 ・グループ活動から個人活動への学習形態を取り入れ、実践することができ、この形態も学習を組み立てていくうえで効果的であることが分かったことがよかった。 →系統性をもって意図的に取り入れていくとよいのではないか。 ・グループ活動から個の活動にすることで、「こうしたい」という意図をもって取り組むことができた。 →相談タイムの関わり合いを通して、対話的な活動ができた。 ・学習形態を工夫することで達成感を味わいながら取り組むことができた。				
	今後の課題 ・オンラインのため、実際に音を出して方向性を考えることが難しかった。 →来年度は部員で集まり、実際に音楽をつくったり、どんなモデル演奏が効果的かを考えたりしながらよりテーマを追究していきたい。 ・どんな学習形態で、どのように対話的な学びを取り入れていくのか、子どもの変容をみとるためにどんな手立てをとるのか考えていく。 →一人ひとりの活動をみとり、個に合った支援ができる。 ・よりよい対話的な学びを実現するために、子どもの対話を分析したり、関連付けたりすることで、思考の変容をみとることができるのではないか。 ・成果物ではなく、思いや意図をもって考えている場面・思いを大切にしている場面を評価していきたい。 ・旋律づくりでは、個による活動が主になるのではないかと考えていたが、子どもたちは自分がつくった旋律を基に友達と関わる中で、自然とつないでみたいという思いをもつということがわかった。 ・経験（既習・学習の導入）が大事である。子どもたちがたくさん経験しているとそれだけ思いや意図を強くもって学習に取り組むことができる。				